

4 施設の実践事例の紹介

紹介事例について

平成30年介護等体験事業実施施設のうち、福祉人材センター職員が訪問してお話を伺った6施設の取組をご紹介します。

なお、次の4項目ごとに各6施設をA～Fで記載しています。

- (1) オリエンテーションの実施日と内容等
- (2) 体験全体について、学んでもらいたいこと、プログラムの考え方や思い等
- (3) 介護等体験を受け入れて感じていること、また、困ることなどはあるか
- (4) 体験している学生の感想など（現地での聞き取り）

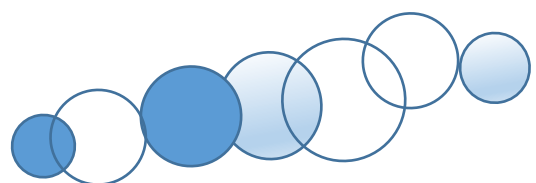
----- 6 施設の概要 -----

施設	分野	種別	利用定員等	体験プログラムの一例
A	児童	放課後デイサービス	中高生 定員 10 人	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒にレクリエーションをしたり、おやつを食べたりする。 ・宿題を見守る。 ・送迎バスや図書館に同行する。
B	障害	障害者福祉サービス 多機能型	生活介護 継続B型 就労移行 定員 36 人	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に昼食をとったり、焼き菓子の作業を行ったりする。 ・活動を見守り、作業着の着脱など手順を導く。
C	障害	障害者支援施設	入所支援 定員 50 人	<ul style="list-style-type: none"> ・受注した組み立て作業を見守り、手順を導く。 ・一緒に昼食をとったり、レクリエーション、洗濯、掃除をしたりする。
D	障害	障害者福祉サービス 就労継続 B	定員 20 人	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に作業を行ったり、見守ったりする。 ・箱の組み立て作業を説明し教える。
E	障害	障害者福祉サービス 生活介護	定員 27 人	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に軽作業を行ったり、お菓子の箱の組み立てを見守ったりする。 ・利用者がお茶を入れる作業をサポートする。
F	高齢	特別養護老人ホーム	定員 100 人	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒にレクリエーションをする。 ・食事の配膳をしたり、話し相手をしたりする。 ・洗濯物をたたんだり、片付けたりする

(1) オリエンテーションの実施日と内容等

施設	実施日	内容
A	体験初日	<ul style="list-style-type: none"> ・体験初日にオリエンテーションを実施。 ・施設の概要と障害のある子について説明。 <p>○配付資料無し</p>
B	事前実施	<ul style="list-style-type: none"> ・体験前の別日程にて 30～40 分程度のオリエンテーションを実施。 ・オリエンテーション時の面談から学生の様子を確認して 5 日間の体験を組み立てる（生活介護と就労継続支援の割合や順番等）。 ・オリエンテーションでは、事業所の概要と支援の基礎的な内容、日々の支援の留意事項などを話す。先入観を持たせないために、あえて特定の利用者についての話はしていない。しかし、学生及びその時の状況により伝える判断をする時もある。 <p>○配付資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ■事業所のリーフレット、広報紙（施設通信） ■普段職員用として使用している資料（A4判4頁） 『「苗字・名前さん付けの徹底」、「支援の基礎」「ジョブコーチ」「日々の支援で気をつけること』、『支援の基本「ほめる」ことについて』 <ul style="list-style-type: none"> ・体験期間の半ばで、障害の理解について話す時間を設定。 <p>○配付資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ■「自閉症・ダウン症 基本メモ」（A4判2頁） ■『自閉症の僕が「ありがとう」を言えるまで』（A4判2頁） 雑誌に掲載された手記の写しを活用
C	体験初日	<ul style="list-style-type: none"> ・体験初日に 30 分程度、オリエンテーションを実施。 ・学生の準備状況が異なるので、初日からがっちりと説明せず、施設内を見学しながら理解をしてもらい、学生の様子を見ながら、障害福祉について解説をしている。 <p>○配付資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ■法人パンフレット（記念誌） ■「○○○○様 ようこそ□□□□へ」（A4判6頁） 表紙に、学生の名前、体験期間、介護等体験の担当者名・副担当者を記載。中には、ロッカーや食事、振り返り時間、体験5日間の流れ（大まかな計画表）、日々の担当職員名、施設概要や法人理念等について記載している。

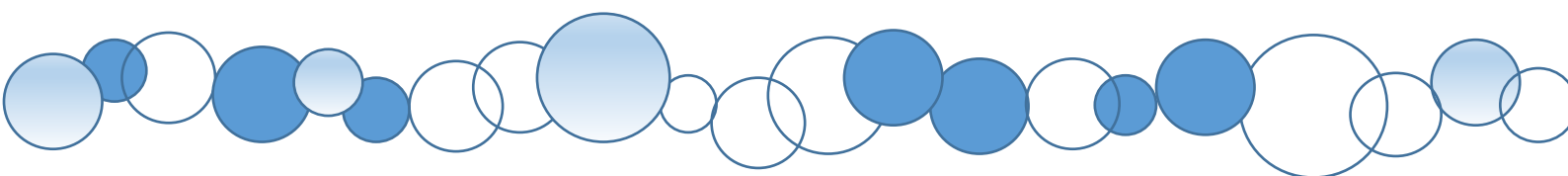
D	事前 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・体験前の別日程にて 30 分程度のオリエンテーションを実施。 ・施設の状況や体験内容、持ち物等の説明をして、見学をしながら様子を見てもらう。 ○配付資料 <ul style="list-style-type: none"> ■施設のパンフレット ■「実習要項」(A4 判 1 頁) 体験にあたっての注意事項や時間、服装、日誌の書き方など ■「介護等体験における課題について」(A4 判 1 頁) ■「障害者虐待みんなでなくそう」埼玉県が発行した支援者向けの確認資料
E	体験 初日	<ul style="list-style-type: none"> ・体験初日に 1 時間程度のオリエンテーションを実施。 ・体験にあたっての注意点や施設の説明をしている。また、注意の必要な利用者の対応の仕方も説明している。 ・学生は緊張しているので、自己紹介票を見て、出身地や趣味等の雑談もしてアイスブレイクを行う。 ○配付資料 <ul style="list-style-type: none"> ■施設概要 (A4 判 2 頁) ■「実習中の留意事項」(A4 判 1 頁) ・体験週の中ほどで、障害について話す。 ○配付資料 <ul style="list-style-type: none"> ■「障害とは」(A4 判 9 頁：うち図解が 6 頁) 障害の種類と解説、重複することの多い障害等の説明資料
F	事前 実施	<ul style="list-style-type: none"> ・体験 1 週間前までに、30 分程度オリエンテーションを実施。 ・施設の役割や理念、5 日間の体験予定内容を説明している。そのときに、学生の希望を聞き、出来ることは体験内容に反映させている。 ・認知症について、いくつかの事例で説明をしている。 ○配付資料 <ul style="list-style-type: none"> ■施設パンフレット ■「介護等体験実習の受け入れについて」(A4 判 1 頁) 学生の名前・期間を入れた資料で、留意事項、伝達事項、各日の担当者名を記載。



(2) 体験全体について、学んでもらいたいこと、プログラムの考え方や思い等

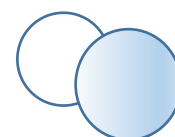
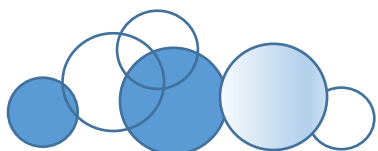
A	<ul style="list-style-type: none">・体験時間は5日間とも午後5時間程度設定。・日々の利用者（中高生）の数や状況が変わり活動が異なるため、当日のミーティングの時に体験内容を伝えている。・人と人が接することの大切さを、体験を通して学んで欲しい・障害のある子どもがいることや障害のある子どもの姿、またこのような支援施設があることについて理解をしてもらいたい。
B	<ul style="list-style-type: none">・朝のミーティングで前日の振り返りをしているので、学生には職員と同じ時間に来てもらっている。また、利用者が帰った後に片付けやその日の記録・職員との振り返りをしている。記録は家で書くより施設で書いた方がいいだろうと考えているため、他の施設より時間が長くなっているかと思う。・日々の体験活動は班に任せている。初日は担当する職員に付いて体験してもらうが、だんだん学生が利用者の傍で手伝うことに慣れるため、1対1対応の時間は増えていく。・学生自身でも声掛けや手順の説明の仕方を工夫していくようになるが、分からない時や日々の振り返りの時に職員からアドバイスをしている。・昔の障害者施設の体験は、作業をさせることが中心ということもあったかもしれないが今は利用者の手伝いを中心にしている。
C	<ul style="list-style-type: none">・受け入れの都度、パートを含め全職員に介護等体験の意義等を話し職員の理解を促進している。・学生は、①高齢者が対象のグループ（一緒にリハビリ体操）、②施設内の清掃や洗濯のグループ、③農作業のグループ（②③声掛けしながら一緒に作業）、④組立作業等のグループ、⑤アルミ缶のリサイクルプレスのグループ（④⑤作業の見守り）の5グループを全て体験している。・毎日、振り返りの時間を持ち、なぜ利用者がそのようなことをしたのか話し合い、不安を解消している。・外からではわからない福祉の仕事の魅力を伝えていきたい。・福祉の仕事も教員も命を預かる仕事であることを伝えている。
D	<ul style="list-style-type: none">・体験プログラムとして1日目～5日目まで各日の課題を設定し、オリエンテーションで説明している。段階的に理解できるように設定した課題のほか、個人でも日々目標を設定してもらっている。・終礼時、学生からその日に感じたこと等を聞き、解決策を提案して翌日に持ち越さないようにしている。・中間の水曜日に振り返りとアドバイス、後半の取組の方向性について話し合う。また、慣れて友達感覚にならないように、再度、施設及び利用者の目的を話している。・人との関わり方や支援とはどういうものかを学んでほしい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3日目に作業手順を説明するプログラムを組んでいて、自分がきちんと把握していないと説明は出来ないので、どのように説明したら理解してもらえるか、教えることについて体験を通して学んでもらいたい。 ・ どういう声掛けや接し方をしたら利用者に伝わるか、相手を理解することを学んで欲しい。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3つの班があり、A・B班は軽作業、C班は菓子箱の組み立て作業をしている。学生はA・B班では利用者のサポートを行い、C班では利用者と一緒に作業をする。この3つの班の作業量を見て、その時々体験内容を伝えている。 ・ 職員と利用者との関わり方、利用者同士との関わり方（利用者同士が互いの特性を理解し、自分が相手をどうサポートすればいいのか考えている様子）を学んでもらいたい。 ・ 障害のある人と関わることは特別ではないことや、障害のある人の多くが働いていて社会とつながっていることを知ってもらいたい。 ・ 積極的に関わってほしい。5日間体験を行う中で、うまくいくことばかりではないが、体験中に出来なかったことがその後に繋がっていかれば良いと思っている。 ・ 教員は、障害を持った児童やその家族と関わる場面があると思うので、悩み等が理解できるようになってほしい。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護の職場は人手不足感がある中でも、どのような関わり方をしているか、どのような工夫をすればよいのかを学んで欲しい。 ・ 高齢者がどうやって生活しているのかを知ってほしい。 ・ 人と関わるということの中でも、対面で言葉を交わす大切さを学んで欲しい。 ・ 共生がテーマと考えているので、高齢者施設で体験して、地域住民として施設に望むことなど提案もしてもらいたい。福祉施設を身近に感じてもらえるようになって欲しい。



(3) 介護等体験を受け入れて感じていること、また、困ることなどはあるか。

A	<ul style="list-style-type: none">・学生が来ると利用者がとても喜ぶ。しかし、毎週受け入れられるほど職員体制に余裕はない。
B	<ul style="list-style-type: none">・自分達も学生から学ぶことは多い。・最初に学生の態度が積極的でないと感じても、スタートすれば利用者自身が自ら学生に触れたり、関わりを持とうとしたりする。利用者に肩をたたかれたり、腕にタッチされたりしていくうちに、学生自身も態度を変え始め、だんだん関係性を構築していく。ただし、冗談を言ったりすることは注意しなければいけないことなので、最初に伝えるようにしている。
C	<ul style="list-style-type: none">・利用者が楽しみにしている。・学生に何を伝えることができるかを考えるいい機会になっていて、感覚が磨かれる。・外部からの目が入る事で、職員の背筋が伸びる。
D	<ul style="list-style-type: none">・外部の人との関わりが持て、風通しのよい施設になる。出会えた縁を大切に、一緒にやっていく意識を持っている。・過去に学生と利用者間で物のやり取りや約束事をしたことがあった。オリエンテーションで、学生には利用者との物のやり取りや約束事をしないように伝えている。
E	<ul style="list-style-type: none">・利用者にとってはプラスになるし、学生が来ている時は活気が違う。触れ合う事で刺激になる。・職員は学生の手本になるように意識を高められている。・受入れで困ることはないが、過去に、社会人の態度としてはどうかと思うことがあって学生に注意をしたことがあった。
F	<ul style="list-style-type: none">・外部の人が来てくれることは利用者の刺激になるし喜んでいる。・他の職員も、学生から挨拶されるとコミュニケーションがとりやすくなるようで、挨拶ができるほうが体験は上手くいくと感じている。しかし、挨拶が最初は上手く出来ない学生も、挨拶をするとよいコミュニケーションがとれるという成功体験を繰り返すと、楽しく体験できるようになっていくようである。



(4) 体験中の学生の感想など

(現地で学生に直接聞き取り。施設によっては複数の学生)

A	<ul style="list-style-type: none">・特別支援学校の体験もまだ行ってないので、初めての施設体験で不安や恐怖があった。・接していると、障害の有無に関係なく利用者はかわいらしく楽しいことが多い。どのように利用者と接してよいか分からないことが多いが、職員の接し方や話し方を見て学んでいる。やってみないと分からないことが多い。
B	<ul style="list-style-type: none">・大学のガイダンスで福祉施設等については説明を受けた。特別支援学校の教員課程を学んでいるので、学校で習ったことを実践してみて、学んだ通りだと感じることや違うなと感じることがある。違うなと思った時は職員の方に聞いたりしている。・職員の皆さんに声を掛けてもらっているし、親切に教えてくださるので学びが多いと感じている。・最初に学校で申し込む時に、施設種別の意味は分からず書いていた。また受入連絡票を見て、どんなところか確認した後は体験時間と住所の確認をした。朝が早いと感じたが自転車で通え、近いから安心した。電車に乗って通うのは大変だと思う。・体験時期の違う友人と情報交換はする。中にはずっと掃除だけだったという友人もいて、自分の体験がどうなるか不安だった。楽しかったという友人ももちろんいる。・教員として指導することを考えていたが、利用者と関わりながらお互いが刺激し合っていくアプローチの仕方があることが分かった。職員の皆さんがしてほしいことを伝えてくれるので、やりやすい。・多様性を学ぶためにも介護等体験は必要だと思う。
C	<p>学生①：</p> <ul style="list-style-type: none">・施設との関わりが初めてで、マスコミやニュースでネガティブな情報が多くて不安だった。しかし、施設の職員がよくしてくれてイメージとは異なり意識の違いを感じた。・組み立て作業の時に、利用者から「代わりにやってくれ」と言われた。自分の判断で、利用者の手に容器をもたせ作業をするように勧めた。どのくらい関わるのかバランスが難しく、利用者との距離感の難しさを感じた。 <p>このことはその日のミーティングで職員と面談で話をした。人とどう接して相手が何を求めるかを理解するために、教員だけでなく他の職種の人達にもこの体験は経験してもらいたい。</p> <p>学生②：</p> <ul style="list-style-type: none">・特別支援学級を経験しているので、比較しながら社会福祉の体験を行うことを心がけた。ケアと教育では共通していることも多いが、福祉の現場でないと学べない事がある

	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩から介護等体験でとても嫌な思いをしたと聞いていたので最初は不安があった（どの施設かわからないし、本当かどうかもわからないけれど）。 ・先入観を植え付けられていたが、体験で本当のことが見えてくる。 ・利用者はもっと難しい組立作業ができるのに、発注先がそのような仕事は回してくれないと知り、もどかしいと感じた。
D	<p>学生①：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校では補助の作業が多かったが、介護等体験では作業とコミュニケーションのバランスが取れていていい。 ・施設が受入れに慣れていてサポートがしっかりしているので安心して体験を行える。「教える」という課題があり、教員との共通点があり目標をもって取り組んでいる。 ・介護等体験なので、高齢施設での体験をイメージしていた。障害施設を知る機会になり、意識をして生活ができるようになった。 ・最初は体験をやる意味を見いだせなかったが、体験を通して社会的にも現状を知ることができ体験の必要性を感じた。 <p>学生②：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単純作業をするので、教員になることとどうつながるのか疑問に思っていたが、利用者には個性があって、1人1人を観察することが大事だと分かった。 ・利用者は仕事をしているという意識があり、利用者に助けられている。また、朝早く起きる生活に、働く上での気づきがある。 ・話しかけても反応がない利用者がいて不安になったが、職員からその利用者の特性を教えてもらおうと理解ができる。チームワークの大切さも知ることができた。 ・日誌を書くと、職員がコメントをぎっしりと書いてくれる。 ・体験前に事前オリエンテーションがあったので、イメージができて良かった。 ・自分が経験しないと気づけないことが多く、福祉の世界とその背景が繋がって教員になる時に役に立つ。
E	<p>学生①：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初は戸惑った。一緒に過ごす、その人の良いところや苦手な事が分かる。 ・小学校には、知的に遅れている子や障害のある子の学級があるので、その理解をするのに必要でありいい経験ができています。 ・保育園に通っている頃から障害を持った友達がいるのでギャップはない。 ・母の時代は、介護等体験の制度がなかったため、こういう経験をしていないことを聞くと、介護等体験は必要だと思う。

	<p>学生②：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害について学んだけれど、イメージでしかなく、同じ障害でも人によって差があり、同じ関わり方ではなく、人によって関わりが違うと知った。 ・児童心理教育を学んでおり、児童福祉に興味がある。人と人との関わりができる仕事をしたい。 ・女性が苦手な利用者がいて、どうコミュニケーションをとってよいか、パーソナルスペースが難しい。相手の様子をよく見て対応することが必要であると分かった。 ・名前を呼んで話しかけると伝わるということが分かった。 ・教育現場では、1クラスに1、2名は障害のある児童がいる。1人1人に個性があるように、その人にあった接し方や話し方を理解でき、教師になった時に役立つと思う。 <p>学生③：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験前は、障害を持つ人を嫌だなあと感じていたが、体験を通して見方が変わった。 ・いきなり立ち上がったたり、動き回ったりする人がいて、何がしたいのか分からなかったなので、まずは安全確保を第一に考えて動くようにした。 ・体験をする前は、介護等体験の必要性に疑問を持っていたが、体験を通して教師になるためだけでなく、人として障害者との接し方が理解でき、体験は必要なことだと感じている。 ・学ぶというよりは、その瞬間の触れ合いを通して経験値にしていきたい。体験をやったことを忘れないように、感覚を残しておきたい。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・やったことがないことで最初は不安だった。 ・事前に介護等体験について勉強をした。教員になるかは別として、何で介護等体験が必要か、自分にできることは何かを見つけたいと思って体験に臨んでいる。 ・利用者は、1人1人違って個性が大事。個性は大事だけどケアの基準も大事。あたり前のことを丁寧にする。これらは、教育にも繋がっていると思う。 ・知識として学んでいたことでも、実際には使えないことが多いと感じた。 ・1日目は指示をもらい一緒に付いてもらったが、2日目からは自分から職員に提案し1人でやってみている。受け身で指示待ちではなく、自分で考えて動けるように心がけている。 ・職員の方は、親切で話しやすいので相談しやすい。何故必要なのか、何故そうするのか納得できた。 ・オリエンテーションが事前に設定されていたので、施設までの経路やバスの時間等を確認することができた。30分～1時間早く着くよう時間の余裕をもって家を出ている。